

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の2年目)

1. 研究課題

隋唐石刻資料の研究

Research on Stone Inscriptions of Sui and Tang Dynasties

2. 研究代表者氏名

倉本 尚徳

KURAMOTO, Hisanori

3. 研究期間

2023年4月-2027年3月(2年目)

4. 研究目的

本研究班は、これまで本研究所で組織されてきた漢代から北朝までの石刻拓本研究班の伝統を継承し、研究所所蔵の隋唐石刻拓本を閲覧し、文字の釈読と現代語訳・注釈の作成を行うものである。隋唐時代に関して言えば、これまで大量の墓誌が出土するなど、石刻は歴史研究に不可欠な基本資料である。また、仏教関係の寺碑・塔銘・造像記も多数存在し、そこには非常に貴重な記事も見られる。本研究所所蔵拓本は、近年の新出資料を含まず、よく知られたものが多い。ただし刻文内容については十分な検討がなされていないものも多く、綿密な解読を行うことで新知見の獲得が期待される。

先行の研究班と異なる本研究班の特徴としては、訓読だけでなく現代語訳も行うこと、墓誌や碑文だけでなく、仏教に関わる資料も多くとりあげることである。班員には歴史学・考古学・哲学・思想史・書道史・仏教美術史・文学・語学など、多彩な専門の者が集まることを活かし、文章内容だけではなく、実物の形状や文字の配置・書体・文章の修辞法なども含め多角的な検討を行いたい。

Researchers have been collating and studying this institute's collection of approximately 10,000 stone engraving rubbings over a long period. This research group, carrying on the tradition of the institute's research groups that studied stone rubbings, covering the period from the Han dynasty to Northern dynasties, will view the Sui and Tang dynasties stone rubbings in the collection, decipher and interpret the characters therein, and translate the material from both dynasties into contemporary Japanese and provide annotations.

This research group is different from previous groups in that it will not only read the texts but also translate them into contemporary Japanese. It will not confine its examination to gravestone epitaphs and monument inscriptions but also look at many other materials related

to Buddhism. Taking advantage of group members' diverse specialties—such as history, archaeology, philosophy, intellectual history, calligraphy history, Buddhist art history, literature, and linguistics—we want to conduct multifaceted examinations of, in addition to textual content, the shape of the engraved stones themselves, character placement and style, and textual rhetoric.

5. 本年度の研究実施状況

本年度も昨年度に引き続き隋代の重要な石刻拓本資料を研究対象にとりあげ、会読を行い訳注を作成した。研究会は基本的に昨年度同様 ZOOM を用いたオンラインと対面形式の双方を用いたハイブリッド形式で行い、合計 17 回開催した。そのうち 15 回は石刻の釋読と訳注作成を行った。本年度とりあげた石刻は、昨年度からのつづきの隋の南宮令宋君像碑、寇奉叔墓誌、美人董氏墓誌、大信行禪師銘塔碑である。これに加えて、石刻資料を利用した研究報告会を 2 回開催した。11 月には沼津高等専門学校の平田陽一郎氏が「隋 �煬帝の文化事業の一側面 人事管理を中心に」と題する研究報告を行い、隋の煬帝期の文化事業にかかわる官制改革の実態に迫る際、墓誌などの石刻資料が重要であることを示した。また、1 月には名城大学の大知聖子氏が「北魏墓誌を用いたジェンダー研究 — 宮女墓誌を手掛かりとして」という研究報告を行い、テキストマイニング分析を用いた新しいジェンダー研究の可能性を提示した。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.12 隋唐石刻資料の会読 南宮令宋君像碑 発表者 池平紀子 大阪公立大学 国際基幹教育機構・現代システム科学研究所
- 2024.4.26 隋唐石刻資料の会読 南宮令宋君像碑 発表者 池平紀子 大阪公立大学 国際基幹教育機構・現代システム科学研究所
- 2024.5.10 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之
- 2024.5.24 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之
- 2024.6.14 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之
- 2024.6.28 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之
- 2024.7.12 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之 訳注原稿の検討 発表者 倉本尚徳
- 2024.7.26 隋唐石刻資料の会読 隋使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘 発表者 永田知之

2024.10.12 隋唐石刻資料の会読 美人董氏墓誌銘 発表者 道坂昭廣 人間・環境学研究科
2024.11.08 隋唐石刻資料の会読 美人董氏墓誌銘 発表者 道坂昭廣 人間・環境学研究科
2024.11.22 隋 煙帝の文化事業の一側面 –人事管理を中心に 発表者 平田陽一郎 国立沼津工業高等専門学校 教養科
2024.12.13 隋唐石刻資料の会読 大信行禪師銘塔碑 発表者 戸次顕彰 大谷大学 文学部
2024.12.27 隋唐石刻資料の会読 大信行禪師銘塔碑 発表者 戸次顕彰 大谷大学 文学部
2025.1.10 北魏墓誌を用いたジェンダー研究 – 宮女墓誌を手掛かりとして 発表者 大知聖子 名城大学
2025.1.24 隋唐石刻資料の会読 大信行禪師銘塔碑 発表者 戸次顕彰 大谷大学 文学部
2025.2.14 隋唐石刻資料の会読 大信行禪師銘塔碑 発表者 戸次顕彰 大谷大学 文学部
2025.3.28 隋唐石刻資料の会読 大信行禪師銘塔碑 発表者 戸次顕彰 大谷大学 文学部

7. 共同研究会に関連した公表実績

隋唐石刻資料の研究班「隋唐石刻資料選訳注」『東方学報』99 冊 2024 年 12 月

8. 研究班員

所内

倉本尚徳、稻本泰生、古勝隆一、永田知之、野原将揮、藤井律之、船山徹、古松崇志、宮宅潔、向井佑介、佐藤智水、打本和音、小野木聰

学内

道坂昭廣(人間・環境学研究科)、池田恭哉(文学研究科)、成田健太郎(文学研究科)、于恒超(人間・環境学研究科)、大谷由香(白眉センター)

学外

陳錦清(三重大学 人文学部)、河上麻由子(大阪大学大学院 人文学研究科)、佐野誠子(名古屋大学大学院 人文学研究科)、李乃琦(名古屋大学大学院 人文学研究科)、田熊敬之(東京大学大学院 人文社会系研究科)、王孫涵之(弘前大学)、杜智勇(大阪大学)、池平紀子(大阪公立大学 国際基幹教育機構・現代システム科学研究所)、平田陽一郎(国立沼津工業高等専門学校 教養科)、大知聖子(名城大学 理工学部)、大西磨希子(佛教大学 仏教学部)、高井龍(龍谷大学 世界佛教文化研究センター)、戸次顕彰(大谷大学 文学部)、村田みお(近畿大学 国際学部 国際学科)、魏藝(龍谷大学)、酒井ゆき(大谷大学)、都河陽介(龍谷大学)、石松日奈子(東京国立博物館 学芸研究部)、北村一仁(河南農業大学 外国語学院 日語系)、梶山智史(南開大学 歴史学院)、岡田和一郎(陝西師範大学 外国語学院)、梁爽(南京大学文学院)、陳志遠(中国社会科学院歴史研究所)、王煒(山西大学歴史文化学院考古系)、李瀾(University of Toronto)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)		
			(0)	(1)	(0)	(1)		(0)	(15)		
人文研所属 (内女性)	1	16	0	1	1	1	130	0	15	13	8
		(3)	(0)	(1)	(0)	(1)	(24)	(0)	(15)	(0)	(8)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	3	7	0	0	0	3	49	0	0	0	13
		(2)	(0)	(0)	(0)	(1)	(12)	(0)	(0)	(0)	(4)
国立大学 (内女性)	5	6	0	1	0	0	47	0	3	0	0
		(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(37)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学 (内女性)	2	2	0	0	0	0	17	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(8)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学 (内女性)	7	11	0	1	0	1	84	0	5	0	1
		(6)	(0)	(0)	(0)	(1)	(52)	(0)	(0)	(0)	(1)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関 (内女性)	7	7	6	0	0	1	48	40	0	0	8
		(2)	(1)	(0)	(0)	(1)	(9)	(1)	(0)	(0)	(8)
その他 ※ (内女性)	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	27	51	6	3	1	6	381	40	23	13	30
		(19)	(1)	(1)	(0)	(4)	(144)	(1)	(15)	(0)	(21)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適當ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	東方学報	1	2024.12	隋唐石刻資料選訳注 (一)	藤井律之 倉本尚徳 池平紀子, 成田健太郎, 佐野誠子

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書
なし

12. 博士学位を取得した学生の数
1 (学外 1)

13. 次年度の研究実施計画

次年度も引き続き石刻拓本資料の会読を行い、17回前後の研究会の開催を予定している。昨年度、今年度と仏教関係の石刻資料を比較的多く扱ってきたが、次年度の仏教関連の碑文として、隋王朝による江南の陳王朝征伐の戦勝記念でもある隋都督諸葛子恆等合邑百人造像記を会読し訳注を作成する。この拓本には供養者の線刻画像もあり、美術史の資料としても興味深い。さらに、隋代では珍しい儒教の石刻資料である陳叔毅修孔子廟碑を会読し訳注を作成する。隋代の儒教研究の一助となれば幸いである。また、7月に人文研アカデミーのイベントとして、本研究班から倉本尚徳と小野木聰が講師として参加しワークショップ「拓本のうそほんと」を開催する。秋以降には陳錦清氏・会田大輔氏に石刻資料に関する研究報告を依頼している。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度も会読した石刻資料について、『東方学報』に訳注を掲載する予定である。また今年度研究報告を行った大知聖子氏と平田陽一郎氏には原稿をまとめていただき論文として次年度、あるいは再来年度に発表する予定である。今後は他の班員にも石刻資料を用いた研究の発表を促し、石刻資料を用いた研究のさらなる深化をはかりたい。